



『虫ガール ほんとうにあったおはなし』

ソフィア スペンサー/文 マーガレットケラスコエット/絵
福本 友美子/訳 (岩崎書店)



小さい頃から虫に夢中のソフィア。でも、虫が好きでいじめにあい、一旦「虫をお休み」することに…。小学生の「虫ガール」が、これまでのことを語った絵本。好きなことを貫く難しさ、それを乗り越える過程と成長を描く。

『すきっていわなきゃだめ？』

辻村 深月/作 今日 マチ子/絵
瀧井 朝世/編 (岩崎書店)



女の子たちの間で、好きな人に「好き」って言うのが流行っている。でも、もし「好き」って言って、嫌がられたらどうしよう、嫌われたらどうしよう。そう思うだけで胸が苦しくなる。この気持ちは「好き」？それとも…。

『じぶんの木』

最上 一平/作 松成 真理子/絵 (岩崎書店)



自然とともに生きてきた伝じいは、わたるに語って聞かせました。だれでも、どこかに「じぶんの木」というものがあるんだと…。自然とともに生きる者のたくましい姿、すべての命を尊ぶ繊細な心を描く。

『義足と歩むルワンダに生きる日本人義肢装具士』

松島 恵利子/著 (汐文社)



ルワンダ大虐殺によって手や足を奪われた人たちの願いをかなえ、未来へと歩む手助けをするため、義足を配付する活動を20年以上続けている日本人の義肢装具士、ルダシングワ真美。その活動を紹介します。

『なぜこうなった？あの絶景のひみつ』

増田 明代/文・構成 山口 耕生/監修 (講談社)



ウユニ塩湖やストロックル間欠泉、グランド・キャニオンといった世界の絶景はどうやって生まれたのか。美しい風景にかくされた自然のしくみを、写真やイラストとともにわかりやすく解説する。

『珍獣ドクターのドタバタ診察日記』

田向 健一/著 (ポプラ社)



動物病院にやってくる、言葉を話せないさまざまなペットたち。アマガエルからリクガメまで、100種類を超える動物たちの治療をしてきた著者が、生きものの命との向きあい方を綴る。

『朝顔のハガキ』

山下 みゆき/作 ゆの/絵 (朝日学生新聞社)



ばあちゃんの家で暮らす小学6年生の誠矢は、夏になると毎年必ず届く謎の「絵ハガキ」の送り主に会うために、冒険の旅に出る。送り主の元へ無事たどり着くが、そこで待っていたのは…。

『坂の上の図書館』

池田 ゆみる/作 羽尻 利門/絵 (さ・え・ら書房)



小学5年生の春菜が暮らすことになったのは、住む家のない母親と子どもが入る、自立支援センター「あけぼの住宅」。となりには市民図書館があった。友人や司書、本との出会いが、春菜を少しずつ変えていき…。



『お父さんのバイオリン』

ほしお さなえ/作 高橋 和枝/絵 (徳間書店)



ある事故がきっかけでバイオリンが弾けなくなった12歳の梢。亡くなった父との絆に気づいた梢とその母が、それぞれに生き方を模索していく姿をみずみずしく描く、さわやかでちょっぴり不思議な物語。

『声の出ないぼくとマリさんの一週間』

松本 聡美/作 渡邊 智子/絵 (汐文社)



ママのアメリカ出張中、ぼくはママのおさななじみの「マリさん」と一週間を過ごすことになった。初めて出会ったマリさんは、不思議な人だった…。

『タイムチケット』

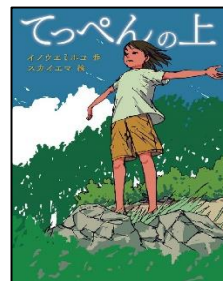
藤江 じゅん/作 上出 慎也/画 (福音館書店)



昭和44年4月4日のキップを探しているマサオ。ある日拾ったタイムチケットにその日付を書き込んでみると、本当に過去へタイムスリップしてしまった。キップを手に入れようとするが、さまざまな障害があつて…。

『てっぺんの上』

イノウエ ミホコ/作 スカイエマ/絵 (文研出版)



悲しみだけを集めていたら、きっと幸せを見落としてしまう。あの山のてっぺんの景色が、あたしにそう教えてくれた。2か月前、エナのお母さんが家から出ていった。自分が原因だとエナはずっと気にしている…。

『となりの火星人』

工藤 純子/著 (講談社)



空気を読めない子。読まない子。読みたくない子。みんな「困った子」なんかじゃない。「困っている子ども」なんだ！2018年、火星大接近の年にすべての「困っている子」に贈る、自分を好きになれる物語。

『今、空に翼広げて』

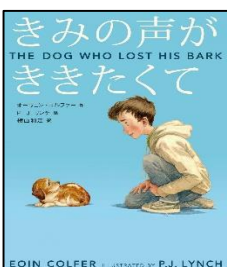
山本 悦子/著 くまおり 純/絵 (講談社)



同じ通学班の小5の真紀に子犬のように懐いている小1のつばさ。真紀は、つばさが同級生に「どろぼう」と呼ばれているのを聞き…。1年生から6年生までの個性豊かな6人の通学班の物語。

『きみの声がききたくて』

オーウェン コルフアー/作 P. J. リンチ/絵
横山 和江/訳 (文研出版)



心に深い傷をおい、ほえることができなくなった子犬と、父親とはなれ、声を出すことをやめた少年。時間をかけて親友になったふたりは、「きみの声がききたい」と、同じことをねがい…。

貸し出し中の本は
予約も出来ます。
詳しくは職員に
お尋ねください。

